

科目名(英文名)	ナンバリング	単位数	年次	期間	担当者
アジア知的財産法特論【MR】 (Advanced Study of Intellectual Property Law in Asia)	MPCC04	1	1年次	前期(前半)	村川 一雄(ムラカワ カズオ)

授業のねらい概要	世界経済や企業活動のグローバル化により、知的財産の取得及び保護は、一国の国内に留まらず、国際的に取り組むべき検討課題となっている。本講義では、アジア主要国やBRICSにおける知的財産の取得や保護への対応を考えるため、国際条約や多国間条約を踏まえ、世界市場として注目されるアジアおよび新興国における知的財産法制度をグローバルな視点で捉え活用できる能力を養成する。
----------	--

回数	テーマ	授業の内容・教育方法	予習/復習
第1回	アジア知的財産特論(1)	国際条約や多国間条約の存在を踏まえ、世界経済とアジアとの関連を俯瞰し、アジアにおける知的財産取得と保護に関する現状把握と課題について理解し、説明できる。	インターネットや文献などを調べ、国際条約、他国会条約、世界経済を概観し、アジアにおける知的財産の取得と保護の必要性のイメージを捉える。予習復習のため、4時間以上の授業外学習を行うこと。
第2回	アジア知的財産特論(2)	中国における知財取得(特許、実用新案)に関する現状把握と課題を調査研究し、課題や問題点について説明できる。	中国特許法について現状とその課題についてインターネットや教材を調べ、重要ポイントをまとめ理解を深める。予習復習のため、4.5時間以上の授業外学習を行うこと。
第3回	アジア知的財産特論(3)	中国における知財取得(意匠、商標)に関する現状把握と課題を調査研究し、課題や問題点について説明できる。	中国知財取得について現状とその課題についてインターネットや教材を調べ、重要ポイントをまとめ理解を深める。予習復習のため、4.5時間以上の授業外学習を行うこと。
第4回	アジア知的財産特論(4)	韓国における知財取得に関する現状把握と課題を調査研究し、課題や問題点について説明できる。	韓国知財取得について現状とその課題についてインターネットや教材を調べ、重要ポイントをまとめ理解を深める。予習復習のため、4.5時間以上の授業外学習を行うこと。
第5回	アジア知的財産特論(5)	台湾における特許保護に関する現状把握と課題を調査研究し、課題や問題点について説明できる。	台湾知財取得について現状とその課題についてインターネットや教材を調べ、重要ポイントをまとめ理解を深める。予習復習のため、4.5時間以上の授業外学習を行うこと。
第6回	アジア知的財産特論(6)	インドにおける特許保護に関する現状把握と課題を調査研究し、課題や問題点について説明できる。	インド知財取得について現状とその課題についてインターネットや教材を調べ、重要ポイントをまとめ理解を深める。予習復習のため、4.5時間以上の授業外学習を行うこと。
第7回	アジア知的財産特論(7)	ロシア・ブラジルにおける特許保護に関する現状把握と課題を調査研究し、課題や問題点について説明できる。	ロシア・ブラジル知財取得について現状とその課題についてインターネットや教材を調べ、重要ポイントをまとめ理解を深める。予習復習のため、4.5時間以上の授業外学習を行うこと。
第8回	アジア知的財産特論(8)	JETROにおけるアジア知的財産保護活動に関する現状把握と課題を調査研究し、課題や問題点について説明できる。	JETROにおけるアジア知財保護活動について現状とその課題についてインターネットや教材を調べ、重要ポイントをまとめ理解を深める。予習復習のため、4.5時間以上の授業外学習を行うこと。
第9回			
第10回			
第11回			
第12回			
第13回			
第14回			
第15回			

到達目標	(1) 講義への積極的な参加と目標達成に向けた意欲 ・時間内に課題に対して真摯に取り組むことができる。 ・予習復習、その他、必要な事前調査に取り組むことができる。 (2) 講義での基礎的な技術・知識の定着 (a) 国際条約や多国間協定の概要について高度に理解し、説明できる。 (b) 中国知的財産の取得や保護の現状と課題について高度に理解し、説明できる。 (c) 韓国知的財産の取得や保護の現状と課題について高度に理解し、説明できる。 (d) 台湾知的財産の取得や保護の現状と課題について高度に理解し、説明できる。 (e) インド・ロシア・ブラジルの知的財産の取得や保護の現状と課題について高度に理解し、説明できる。
評価方法	講義への参加態度や貢献度を踏まえ、平常点50%(出席、受講態度)、課題レポート50%の割合で総合的に評価する。課題レポートについては、その都度、フィードバックを図り、理解を促進する。
成績評価基準	目標(1)と(2)について、必達条件とする。なお、目標(1)が実現できていれば、最大+50点を加え、目標(2)について達成している場合、最大+50点を加算する。 A: 到達目標項目について、すべてを総合して平均90%以上の達成度 B: 到達目標項目について、すべてを総合して平均80%以上90%未満の達成度 C: 到達目標項目について、すべてを総合して平均70%以上80%未満の達成度 D: 到達目標項目について、すべてを総合して平均60%以上70%未満の達成度 F: 上記以外

教科書			参考書		
書名	著者名	出版社名	書名	著者名	出版社名
プリント(各回配布)			外国特許制度 [アジア編]	斉藤 達也 編著	発明協会
			外国特許制度概説	朝日奈 宗太	東洋法規

受講心得	市場のグローバル化において、企業におけるPCT及びアジア知的財産法制度は今後とも重要性が高く、知財人材として理解すべき案件である。日本の知財制度と比較しながら、アジア諸国の知財制度を理解することで、グローバルに対応できる知財人材としての素養を高めることが重要である。予備知識は無くても、講義に参加することで必要な知識や調査研究力を得ることができるので、積極的に挑戦してほしい。提出された課題の中で誤解や不正解が多かった点は授業内で解説するので、理解に努め疑問点を解消すること。なお、本科目は録画形式メディア授業に対応しています。
------	--

オフィスアワー	本講義は、毎週火曜日7限目である。なお、質問や相談などは適宜、メールでの対応のほか、水曜日～金曜日の五限目、研究室での個別対応可能である。
---------	---